

科学研究費「大学教員に求められる教育能力の質保証と大学教育資格の在り方に関する国際比較研究」

(研究代表者：川島啓二(国立教育政策研究所))(基盤研究B)

協力：日本高等教育開発協会(JAED)

TUNING Workshop

学位プログラムの体系化にむけて



平成25年12月9日(月) 13:00~17:00

早稲田大学国際会議場 第1会議室

講師：Robert Wagenaar

Director of Undergraduate and Graduate Studies, Groningen University
Director, Groningen International Tuning Academy

同時通訳つき

学位プログラムの体系化は、大学教育改革の喫緊の課題であり、「各専攻分野を通じて培う学士力」(中央教育審議会)や専門分野別の参照基準(日本学術会議)が策定されてきました。しかしながら、これらの能力の獲得を可能にする学位プログラムを構築する具体的な方法は示されておらず、各大学の創意工夫に任されています。大学は、大学間で共有すべき能力枠組に則りながら、固有のミッションや学生ニーズに即応した学位プログラムを構築するという難題に直面しています。

欧州では、欧州高等教育圏の確立をめざすボローニャ・プロセスの実質化を図る目的で、大学が自主的に参加するチューニングの取り組みが2000年より手掛けられてきました。チューニングとは、専門分野ごとに学生に身につけさせようとする能力(コンピテンス)の枠組を定義し、大学の自律性や多様性を尊重しながらコンピテンス枠組に則した学位プログラムを構築する「方法」や「手続き」であり、それを採用する大学の取り組みを指します。チューニングを採用する目的はさまざまであり、そうした汎用性がチューニングの世界的展開を促してきました。

コンピテンス枠組を定義するにあたっては、教員が卒業生や雇用主と協議しながら、専門分野の意義を学術的観点からだけでなく、学生の進路先である社会的観点からも、分かりやすく説明しようとする点に特徴があります。また、学位プログラムを構築するにあたっては、大学間で共有する抽象性の高いコンピテンス枠組から、各大学の固有のミッションや学生ニーズに対応した具体的なコンピテンスと、科目の履修をとおして達成可能であり、成績評価をするために測定可能な学習成果に落とし込んでいく方法を示している点に特徴があります。

このワークショップでは、チューニングの取り組みを先導してこられたワーヘナール氏を講師としてお迎えし、学位プログラムの体系化が喫緊の課題となっている日本の大学での援用の可能性を探ります。



お問合せ先：国立教育政策研究所 高等教育研究部

川島啓二、渡邊あや (E-mail: tuning-ahelo@nier.go.jp)

このワークショップは、科学研究費補助金「大学教員に求められる教育能力の質保証と大学教育資格の在り方に関する国際比較研究」(基盤研究B)(研究代表者：川島啓二)の一環として、また、国立教育政策研究所平成25年度教育改革国際シンポジウム関連行事として開催いたします。